

同時系対逐次系 : 積分と最適化のために

岩本, 誠一
九州大学経済学部 : 教授

<https://doi.org/10.15017/4493038>

出版情報 : 経済學研究. 57 (5/6), pp.101-119, 1992-09-10. 九州大学経済学会
バージョン :
権利関係 :



同時系対逐次系

— 積分と最適化のために —

岩 本 誠 一

1. 概 要

多変数実数値関数の領域上での最適化と積分の繰り返し計算について同時並行的に考えてみよう。繰り返し最適化に対しては動的計画法があり、積分の繰り返し計算としては適当な変数変換を施して一変数の積分の積の型に導いたり、積分領域を縦線型で表現して累次積分に持ち込む方法がある。

動的計画法は、与えられた最適化問題に含まれる (i) 目的式の単調性と再帰性および (ii) 最適化領域の逐次性の両方を繰り返し用いて、 n 変数同時最適化を n 段の繰り返し最適化で解く方法である [1, 5, 7, 8]。他方、与えられた多重積分を計算する場合、(iii) 積分領域の逐次性、に着目して n 回の累次積分で計算するのが実際的である。特に、(iv) 被積分関数の加法性があるときは、対応する再帰式 (漸化式ともいう) を導いて、これを解くことによって、求める多重積分の値を計算することができる [8]。すなわち、最適化と積分の繰り返し計算においては領域の逐次性 (ii)、(iii) が共通に用いられている。その上に、動的計画法においては (i) 目的式の単調性と再帰性、重積分においては (iv) 被積分関数の加法性がそれぞれ前提とされているとき、両者の計算にはともに再帰式が用いられることになる。

ところが、領域の逐次性 (ii)、(iii) については、直接これは仮定されていないのが現実である。むしろ、領域は等式および不等式の連立系で規定される同時性を帯びていると言ってよかろう。

本論文では、等式・不等式系で規定される同時性をもった領域を逐次性をもつ領域に同値表現することに焦点をあてる。この表現が可能になれば、最適化 (最大化・最小化) については

$$\text{Opt}_{x \in D} f(x) = \text{Opt}_{x_1 \in D_1} \text{Opt}_{x_2 \in D_2(x_1)} \cdots \text{Opt}_{x_n \in D_n(x_1, \dots, x_{n-1})} f(x)$$

重積分については

$$\int_D f(x) dx = \int_{D_1} \int_{D_2(x_1)} \cdots \int_{D_n(x_1, \dots, x_{n-1})} f(x) dx_n \cdots dx_2 dx_1 \quad (1)$$

$$x = (x_1, x_2, \dots, x_n)$$

となり、両者ともに n 変数同時作用を n 回 (後向き) 繰り返し作用に帰着できる [8, 10, 12]。しかも、作用される式 $f(x) = f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ に (i) 単調性と再帰性、または (iv) 加法性があれば、Opt

または $\int dx$ が事前に施されて、対応する再帰式が導けて、求める値が得られることになる。

第2節では同時系と逐次系の定義を与え、逐次系の特別な場合としてマルコフ系を導入する。第3節では連立一次方程式系が定める同時系が逐次系になることを確かめる。第4節では、線形不等式系に対しては逐次的であることと同時的であることは同値であることを証明する。さらに、マルコフ系を含めて種々の例について同時系といくつかの逐次系を同値表現しておく。第5節ではある非線形単調系が逐次的であることを証明して、若干の例を与える。

なお、個々の例に対応して最適化問題と重積分問題が考えられ、再帰式で解かれるが、本論文ではそこまで議論しない。これらは概[10-13]で解決されている。

2. 同時系と逐次系

定義2.1 n 次元ユークリッド空間 R^n における閉領域 R は、有限個の連立不等式系

$$f_1(x) \leq c_1, f_2(x) \leq c_2, \dots, f_m(x) \leq c_m \quad (2)$$

で表される時、同(瞬)時的 simultaneous という。ただし、 $f_i: R^n \rightarrow R^1$ は連続関数とし、 c_i は定数である。この不等式系を同時系という。特に、最適化問題を意識しているときは同時制約系といい、積分を考えているときは同時領域系という。

定義2.2 n 次元ユークリッド空間 R^n における閉領域 R は、有限個の連立不等式系

$$\begin{aligned} c_1 &\leq x_1 \leq d_1 \\ c_2(x_1) &\leq x_2 \leq d_2(x_1) \\ c_3(x_1, x_2) &\leq x_3 \leq d_3(x_1, x_2) \\ &\vdots \\ c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) &\leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \end{aligned} \quad (3)$$

で表される時、(順序 $x_1 \rightarrow x_2 \rightarrow \dots \rightarrow x_n$ に関して)逐次的 sequential という。ただし、 $c_i(x_1, \dots, x_{i-1}), d_i(x_1, \dots, x_{i-1}): R^{i-1} \rightarrow [-\infty, \infty]$ は連続関数とする。この不等式系を逐次系という。特に、最適化問題に対しては逐次制約系といい、重積分のときは逐次領域系という。

定義2.1, 2.2では式にすべて等号も込めて閉領域を考えているが、 \leq のいくつかが不等号 $<$ になっている場合でも、同様に定義できることに注意しておこう。例えば、定義2.2において

$$c_i(x_1, \dots, x_{i-1}) = -\infty, d_i(x_1, \dots, x_{i-1}) = \infty$$

のとき、

$$c_i(x_1, \dots, x_{i-1}) \leq x_i \leq d_i(x_1, \dots, x_{i-1})$$

は $-\infty < x_i < \infty$ を表すものとする。

われわれは領域 R 上での n 重積分や n 変数最適化を意識している。逐次系は明らかに同時系である。したがって、本論文では同時系を同値な逐次系で表現することに焦点をあてる。もし、これが可能ならば、次の2点で有用である。

- (i) n 重積分は n 回の繰り返し積分, すなわち累次積分で計算できる。
- (ii) n 変数最適化は n 回の繰り返し最適化, すなわち動的計画法で計算できる。

本論文では逐次系のうち、特に、マルコフ系について詳しく調べる。

定義2.3 逐次系(3)は、特に $2 \leq i \leq n$ に対して

$$c_i(x_1, \dots, x_{i-1}) = c_i(x_{i-1}), \quad d_i(x_1, \dots, x_{i-1}) = d_i(x_{i-1}) \quad (4)$$

のとき、**マルコフ系** Markovian system という。

3. 線形方程式系

連立一次方程式系 $Ax = b$ すなわち

$$(I) \quad \begin{aligned} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \dots + a_{1n}x_n &= b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \dots + a_{2n}x_n &= b_2 \\ &\vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \dots + a_{mn}x_n &= b_m \end{aligned}$$

を条件: $\text{rank}(A) = \text{rank}(A, b) = r$ の下で考える。ここで

$$\dot{A} = (a_{ij}) \quad m \times n; \quad b = (b_i) \quad m \times 1; \quad x = (x_i) \quad n \times 1$$

とすれば、系(I)は

$$\begin{aligned} f_i(x) &= (a_i, x) & c_i &= b_i \\ f_{m+i}(x) &= -(a_i, x) & c_{m+i} &= -b_i \quad 1 \leq i \leq m \end{aligned}$$

なる同時系である。

行列 A のランクが r だから、適当に行と列を入れ替えて、小行列

$$A_r = \begin{bmatrix} a_{11} & \dots & a_{1r} \\ \vdots & & \vdots \\ a_{r1} & \dots & a_{rr} \end{bmatrix}$$

を正則としてよい。したがって、系(I)は系

$$(II) \quad \begin{aligned} a_{11}x_1 + \dots + a_{1r}x_r &= b_1 - a_{1r+1}x_{r+1} - \dots + a_{1n}x_n \\ &\vdots \\ a_{r1}x_1 + \dots + a_{rr}x_r &= b_r - a_{rr+1}x_{r+1} - \dots + a_{rn}x_n \end{aligned}$$

と同値である。これは逐次系

$$\begin{aligned}
 &-\infty < x_n < \infty \\
 &-\infty < x_{n-1} < \infty \\
 &\quad \vdots \\
 &-\infty < x_{r+1} < \infty \\
 \text{(III)} \quad &C_r + C_{rr+1}x_{r+1} + \cdots + C_{rn}x_n \leq x_r \leq C_r + C_{rr+1}x_{r+1} + \cdots + C_{rn}x_n \\
 &C_{r-1} + C_{r-1r+1}x_{r+1} + \cdots + C_{r-1n}x_n \leq x_{r-1} \leq C_{r-1} + C_{r-1r+1}x_{r+1} + \cdots + C_{r-1n}x_n \\
 &\quad \vdots \\
 &C_1 + C_{1r+1}x_{r+1} + \cdots + C_{1n}x_n \leq x_1 \leq C_1 + C_{1r+1}x_{r+1} + \cdots + C_{1n}x_n
 \end{aligned}$$

に同値表現される。(III)の変数の順序を反転すると、

$$\begin{aligned}
 &-\infty < x_1 < \infty \\
 &-\infty < x_2 < \infty \\
 &\quad \vdots \\
 &-\infty < x_{n-r} < \infty \\
 \text{(IV)} \quad &d_{n-r+1} + d_{n-r+11}x_1 + \cdots + d_{n-r+1n-r}x_{n-r} \leq x_{n-r+1} \leq d_{n-r+1} + d_{n-r+11}x_1 + \cdots + d_{n-r+1n-r}x_{n-r} \\
 &d_{n-r+2} + d_{n-r+21}x_1 + \cdots + d_{n-r+2n-r}x_{n-r} \leq x_{n-r+2} \leq d_{n-r+2} + d_{n-r+21}x_1 + \cdots + d_{n-r+2n-r}x_{n-r} \\
 &\quad \vdots \\
 &d_n + d_{n1}x_1 + \cdots + d_{nn-r}x_{n-r} \leq x_n \leq d_n + d_{n1}x_1 + \cdots + d_{nn-r}x_{n-r}
 \end{aligned}$$

になる。

次の例では行列 A のランクは2である。4つの系はそれぞれ同値である。

例3.1

$$\begin{aligned}
 &x + 2y + 3z + 4u = 0 \\
 \text{(I)} \quad &3x + y - z - 3u = 0 \\
 &4x + 3y + 2z + u = 0 \\
 &7x + 5y + 3z + u = 0 \\
 \\
 \text{(II)} \quad &3z + 4u = -x - 2y \\
 &z + 3u = 3x + y
 \end{aligned}$$

同時系対逐次系

$$\begin{aligned}
 &-\infty < x < \infty \\
 &-\infty < y < \infty \\
 \text{(III)} \quad &-3x-2y \leq z \leq -3x-2y \\
 &2x+y \leq u \leq 2x+y
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &-\infty < u < \infty \\
 &-\infty < z < \infty \\
 \text{(IV)} \quad &-3u-2z \leq y \leq -3u-2z \\
 &2u+z \leq x \leq 2u+z.
 \end{aligned}$$

例3.2

$$\begin{aligned}
 &x+2y+3z+4u = 2 \\
 \text{(I)} \quad &3x+y-z-3u = 1 \\
 &4x+3y+2z+u = 3 \\
 &7x+5y+3z+u = 5
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \text{(II)} \quad &3z+4u = 2-x-2y \\
 &z+3u = -1+3x+y
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &-\infty < x < \infty \\
 &-\infty < y < \infty \\
 \text{(III)} \quad &2-3x-2y \leq z \leq 2-3x-2y \\
 &-1+2x+y \leq u \leq -1+2x+y
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &-\infty < u < \infty \\
 &-\infty < z < \infty \\
 \text{(IV)} \quad &1-3u-2z \leq y \leq 1-3u-2z \\
 &2u+z \leq x \leq 2u+z.
 \end{aligned}$$

4. 線形不等式系

以下、実数値の集合 $\{a_1, a_2, \dots, a_n\}$ と $\{a, b\}$ の最大値, 最小値をそれぞれ次で表す。

$$\bigvee_{i=1}^n a_i, \quad a \vee b; \quad \bigwedge_{i=1}^n a_i, \quad a \wedge b.$$

この節では線形不等式系が逐次的であることを証明して, マルコフ系を含む種々の例を与える。

4.1 基本定理

定理1 線形不等式系

$$Ax \leq b$$

すなわち

$$(I) \quad \begin{aligned} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \cdots + a_{1n}x_n &\leq b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \cdots + a_{2n}x_n &\leq b_2 \\ &\vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \cdots + a_{mn}x_n &\leq b_m \end{aligned}$$

は順序 $x_1 \rightarrow x_2 \rightarrow \cdots \rightarrow x_n$ に関して逐次系

$$(II) \quad \begin{aligned} c_1 &\leq x_1 \leq d_1 \\ c_2(x_1) &\leq x_2 \leq d_2(x_1) \\ c_3(x_1, x_2) &\leq x_3 \leq d_3(x_1, x_2) \\ &\vdots \\ c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) &\leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \end{aligned}$$

に同値表現される。ただし、

$$\begin{aligned} c_i(x_1, \dots, x_{i-1}) &= \bigvee_{r=1}^{q_i} \ell_i^r(x_1, \dots, x_{i-1}) \\ \ell_i^r(x_1, \dots, x_{i-1}) &= c_i^r + c_{i1}^r x_1 + \cdots + c_{i,i-1}^r x_{i-1} \quad r = 1, \dots, q_i \\ d_i(x_1, \dots, x_{i-1}) &= \bigwedge_{s=1}^{p_i} k_i^s(x_1, \dots, x_{i-1}) \\ k_i^s(x_1, \dots, x_{i-1}) &= d_i^s + d_{i1}^s x_1 + \cdots + d_{i,i-1}^s x_{i-1} \quad s = 1, \dots, p_i. \end{aligned}$$

ここに例えば、 $q_i = 0$ のときは $\bigvee_{r=1}^{q_i} \ell_i^r(x_1, \dots, x_{i-1}) = -\infty$ を意味する。したがって、このとき $c_i(x_1, \dots, x_{i-1}) \leq x_i$ は $-\infty < x_i$ を表すとする。同様に、 $p_i = 0$ のときは、 $x_i < \infty$ を意味することになる。

逆に、後者の型(II)の逐次系は適当な線形不等式系 $Ax \leq b$ に同値表現される。

証明 前半を詳しく証明しておこう。まず、不等式系 $Ax \leq b$ を次のように表現しておく。

$$\begin{aligned}
 c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) &\leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \\
 (P_n'') \quad a_{p+q+11}x_1 + a_{p+q+12}x_2 + \dots + a_{p+q+1n}x_{n-1} &\leq b_{p+q+1} \\
 &\vdots \\
 a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \dots + a_{mn-1}x_{n-1} &\leq b_m
 \end{aligned}$$

に同値表現される。ただし

$$\begin{aligned}
 c_n(x_1, \dots, x_{n-1}) &= \bigvee_{r=1}^{q_n} \ell_n^r(x_1, \dots, x_{n-1}) \\
 \ell_n^r(x_1, \dots, x_{n-1}) &= \frac{b_{p+r}}{a_{p+m}} - \frac{a_{p+r1}}{a_{p+m}}x_1 - \frac{a_{p+r2}}{a_{p+m}}x_2 - \dots - \frac{a_{p+m-1}}{a_{p+m}}x_{n-1} \\
 & \quad r = 1, 2, \dots, q_n \\
 d_n(x_1, \dots, x_{n-1}) &= \bigwedge_{s=1}^{p_n} k_n^s(x_1, \dots, x_{n-1}) \\
 k_n^s(x_1, \dots, x_{n-1}) &= \frac{b_s}{a_{sn}} - \frac{a_{s1}}{a_{sn}}x_1 - \frac{a_{s2}}{a_{sn}}x_2 - \dots - \frac{a_{sn-1}}{a_{sn}}x_{n-1} \\
 & \quad s = 1, 2, \dots, p_n.
 \end{aligned}$$

さらに、(P_n'') は次の (P_n'') に同値である。

$$\begin{aligned}
 c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) &\leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \\
 \frac{b_{p+1}}{a_{p+1n}} - \frac{a_{p+11}}{a_{p+1n}}x_1 - \frac{a_{p+12}}{a_{p+1n}}x_2 - \dots - \frac{a_{p+1n-1}}{a_{p+1n}}x_{n-1} &\leq \frac{b_1}{a_{1n}} - \frac{a_{11}}{a_{1n}}x_1 - \frac{a_{12}}{a_{1n}}x_2 - \dots - \frac{a_{1n-1}}{a_{1n}}x_{n-1} \\
 &\quad \vdots \\
 \frac{b_{p+q}}{a_{p+qn}} - \frac{a_{p+q1}}{a_{p+qn}}x_1 - \frac{a_{p+q2}}{a_{p+qn}}x_2 - \dots - \frac{a_{p+qn-1}}{a_{p+qn}}x_{n-1} &\leq \frac{b_1}{a_{1n}} - \frac{a_{11}}{a_{1n}}x_1 - \frac{a_{12}}{a_{1n}}x_2 - \dots - \frac{a_{1n-1}}{a_{1n}}x_{n-1} \\
 &\quad \vdots \\
 \frac{b_{p+1}}{a_{p+1n}} - \frac{a_{p+11}}{a_{p+1n}}x_1 - \frac{a_{p+12}}{a_{p+1n}}x_2 - \dots - \frac{a_{p+1n-1}}{a_{p+1n}}x_{n-1} &\leq \frac{b_p}{a_{pn}} - \frac{a_{p1}}{a_{pn}}x_1 - \frac{a_{p2}}{a_{pn}}x_2 - \dots - \frac{a_{pn-1}}{a_{pn}}x_{n-1} \\
 (P_n''') &\quad \vdots \\
 \frac{b_{p+q}}{a_{p+qn}} - \frac{a_{p+q1}}{a_{p+qn}}x_1 - \frac{a_{p+q2}}{a_{p+qn}}x_2 - \dots - \frac{a_{p+qn-1}}{a_{p+qn}}x_{n-1} &\leq \frac{b_p}{a_{pn}} - \frac{a_{p1}}{a_{pn}}x_1 - \frac{a_{p2}}{a_{pn}}x_2 - \dots - \frac{a_{pn-1}}{a_{pn}}x_{n-1} \\
 a_{p+q+11}x_1 + a_{p+q+12}x_2 + \dots + a_{p+q+1n-1}x_{n-1} &\leq b_{p+q+1} \\
 &\quad \vdots \\
 a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \dots + a_{mn-1}x_{n-1} &\leq b_m.
 \end{aligned}$$

(P_n'') の線形式の項を整理すると、同値な次の (P_{n-1}) が得られる。

$$m_1 = p_2 q_2 + r_2$$

が3つに分割されて

$$p_1 + q_1 + r_1 = m_1$$

となり、添字1を省略して $m_1 = m$, $p_1 = p$, $q_1 = q$, $r_1 = r$ で表わすと、

$$\begin{aligned}
 & c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \\
 & c_{n-1}(x_1, x_2, \dots, x_{n-2}) \leq x_{n-1} \leq d_{n-1}(x_1, x_2, \dots, x_{n-2}) \\
 & \quad \vdots \\
 & c_2(x_1) \leq x_2 \leq d_2(x_1) \\
 & \quad a_{11}x_1 \leq b_1 \\
 & \quad \quad \quad \vdots \\
 (P_1) \quad & \quad a_{p1}x_1 \leq b_p \\
 & \quad a_{p+11}x_1 \leq b_{p+1} \\
 & \quad \quad \quad \vdots \\
 & \quad a_{p+q1}x_1 \leq b_{p+q} \\
 & \quad a_{p+q+11}x_1 \leq b_{p+q+1} \\
 & \quad \quad \quad \vdots \\
 & \quad a_{m1}x_1 \leq b_m
 \end{aligned}$$

になる。これは同値な

$$\begin{aligned}
 & c_1 \leq x_1 \leq d_1 \\
 & c_2(x_1) \leq x_2 \leq d_2(x_1) \\
 & c_3(x_1, x_2) \leq x_3 \leq d_3(x_1, x_2) \\
 & \quad \quad \quad \vdots \\
 & c_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1}) \leq x_n \leq d_n(x_1, x_2, \dots, x_{n-1})
 \end{aligned}$$

にまとめられる。ただし

$$c_1 = \bigvee_{r=1}^{q_1} \frac{b_{q+r}}{a_{p+r1}}, \quad d_1 = \bigwedge_{t=1}^{p_1} \frac{b_t}{a_{t1}}.$$

後半は不等式

$$\bigvee_{r=1}^q k_r \leq x \leq \bigwedge_{t=1}^p l_t$$

が不等式系

$$\begin{aligned}
 -x & \leq -k_r & r = 1, \dots, q \\
 x & \leq l_t & t = 1, \dots, p
 \end{aligned}$$

に同値であることに注意すれば十分である。これで証明を終る。

注1 定理の証明は連立一次方程式系のガウスの消去法を線形不等式系に一般化した Fourier の消去法[2,p.84; 3,14; 15,p.11]に基づいている。

系 線形不等式系 $Ax \leq b$ は任意の順序に関して逐次的である。したがって、順序 $x_1 \rightarrow x_2 \rightarrow \dots \rightarrow x_n$ に対してももちろん順序 $x_n \rightarrow x_{n-1} \rightarrow \dots \rightarrow x_1$ に対しても逐次的となり、反転的である。

4.2 マルコフ系

この節ではマルコフ系において互いに同値な例を4つ示す。

例4.1 ([1,p.47,10]) $a_i \in R^1$ $1 \leq i \leq N-1$, $N \geq 2$ とする。

$$(I) \quad \begin{array}{rcl} x_1 + x_2 & & \geq a_1 \\ & x_2 + x_3 & \geq a_2 \\ & & \vdots \\ & & x_{N-1} + x_N \geq a_{N-1} \\ x_1, & x_2, & \dots, & x_{N-1}, & x_N \geq 0 \end{array}$$

$$(II) \quad \begin{array}{rcl} x_1 + x_2 & & \geq a_1^+ \\ & x_2 + x_3 & \geq a_2^+ \\ & & \vdots \\ & & x_{N-1} + x_N \geq a_{N-1}^+ \\ x_1, & x_2, & \dots, & x_{N-1}, & x_N \geq 0 \end{array}$$

$$(III) \quad \begin{array}{l} x_1 \geq 0 \\ x_2 \geq (a_1 - x_1)^+ \\ x_3 \geq (a_2 - x_2)^+ \\ \vdots \\ x_N \geq (a_{N-1} - x_{N-1})^+ \end{array} \quad (IV) \quad \begin{array}{l} x_N \geq 0 \\ x_{N-1} \geq (a_{N-1} - x_N)^+ \\ x_{N-2} \geq (a_{N-2} - x_{N-1})^+ \\ \vdots \\ x_1 \geq (a_1 - x_2)^+ \end{array}$$

ただし

$$b^+ = b \vee 0.$$

例4.4 ([10]) $N \geq 2$ とする。

$$\begin{array}{rcl}
 y_1 & & \geq 1 \\
 y_1 + y_2 & & \geq 1 \\
 & y_2 + y_3 & \geq 1 \\
 \text{(I)} & \cdot & \vdots \\
 & & y_{N-2} + y_{N-1} \geq 1 \\
 & & y_{N-1} \geq 1 \\
 y_1, & y_2, & \dots, y_{N-2}, y_{N-1} \geq 0
 \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl}
 y_1 \geq 1 & & y_{N-1} \geq 1 \\
 y_2 \geq (1-y_1)^+ & & y_{N-2} \geq (1-y_{N-1})^+ \\
 \text{(II)} \quad y_3 \geq (1-y_2)^+ & \text{(III)} & y_{N-3} \geq (1-y_{N-2})^+ \\
 & & \vdots \\
 y_{N-2} \geq (1-y_{N-3})^+ & & y_2 \geq (1-y_3)^+ \\
 y_{N-1} \geq 1 & & y_1 \geq 1.
 \end{array}$$

4.3 逐次系

この節ではマルコフ的でない逐次系の例を示しておこう。

例4.5 $a_i \geq 0$ $1 \leq i \leq n$, $n \geq 2$ とする。

$$\begin{array}{rcl}
 x_1 & \leq & a_1 \\
 x_1 + x_2 & \leq & a_2 \\
 \text{(I)} & & \vdots \\
 x_1 + x_2 + \dots + x_n & \leq & a_n \\
 x_1, & x_2, & \dots, x_n \geq 0
 \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl}
 0 \leq x_1 \leq a_1 \\
 \text{(II)} & & 0 \leq x_2 \leq a_2 - x_1 \\
 & & \vdots \\
 0 \leq x_n \leq a_n - x_1 - x_2 - \dots - x_{n-1}
 \end{array}$$

$$\begin{aligned}
 0 &\leq x_n \leq a_n \\
 0 &\leq x_{n-1} \leq a_{n-1} \wedge (a_n - x_n) \\
 0 &\leq x_{n-2} \leq a_{n-2} \wedge (a_{n-1} - x_{n-1}) \wedge (a_n - x_{n-1} - x_n)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &\vdots \\
 \text{(III)} \quad 0 &\leq x_3 \leq a_3 \wedge (a_4 - x_4) \wedge \cdots \wedge (a_{n-1} - x_4 - \cdots - x_{n-1}) \wedge (a_n - x_4 - \cdots - x_n) \\
 0 &\leq x_2 \leq a_2 \wedge (a_3 - x_3) \wedge \cdots \wedge (a_{n-1} - x_3 - \cdots - x_{n-1}) \wedge (a_n - x_3 - \cdots - x_n) \\
 0 &\leq x_1 \leq a_1 \wedge (a_2 - x_2) \wedge (a_3 - x_2 - x_3) \cdots \wedge (a_{n-1} - x_2 - x_3 - \cdots - x_{n-1}) \\
 &\quad \wedge (a_n - x_2 - x_3 - \cdots - x_n).
 \end{aligned}$$

例4.6 $a_i \leq b_i$ $1 \leq i \leq n$, $n \geq 2$ とする。

$$\begin{aligned}
 &a_1 \leq x_1 \leq b_1 \\
 \text{(I)} \quad &a_2 \leq x_1 + x_2 \leq b_2 \\
 &\quad \vdots \\
 &a_n \leq x_1 + x_2 + \cdots + x_n \leq b_n
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &a_1 \leq x_1 \leq b_1 \\
 \text{(II)} \quad &a_2 - x_1 \leq x_2 \leq b_2 - x_1 \\
 &\quad \vdots \\
 &a_n - x_1 - x_2 - \cdots - x_{n-1} \leq x_n \leq b_n - x_1 - x_2 - \cdots - x_{n-1}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &a_n - b_{n-1} \leq x_n \leq b_n - a_{n-1} \\
 &(a_{n-1} - b_{n-2}) \vee (a_n - b_{n-2} - x_n) \leq x_{n-1} \leq (b_{n-1} - a_{n-2}) \wedge (b_n - a_{n-2} - x_n) \\
 &\quad \vdots \\
 \text{(III)} \quad &(a_2 - b_1) \vee (a_3 - b_1 - x_3) \vee \cdots \leq x_2 \leq (b_2 - a_1) \wedge (b_3 - a_1 - x_3) \wedge \cdots \\
 &\vee (a_n - b_1 - x_3 - \cdots - x_{n-1} - x_n) \quad \wedge (b_n - a_1 - x_3 - \cdots - x_{n-1} - x_n) \\
 &a_1 \vee (a_2 - x_2) \vee (a_3 - x_2 - x_3) \vee \leq x_1 \leq b_1 \wedge (b_2 - x_2) \wedge (b_3 - x_2 - x_3) \wedge \\
 &\cdots \vee (a_n - x_2 - x_3 - \cdots - x_{n-1} - x_n) \quad \cdots \wedge (b_n - x_2 - x_3 - \cdots - x_{n-1} - x_n).
 \end{aligned}$$

例4.7 $a_i \geq 0 \quad 1 \leq i \leq 3$ とする。

$$\begin{aligned} & 0 \leq x_1 + x_2 + x_3 \leq a_1 \\ \text{(I)} \quad & 0 \leq x_1 + x_2 - x_3 \leq a_2 \\ & 0 \leq x_1 - x_2 - x_3 \leq a_3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & 0 \leq x_1 \leq \frac{1}{2}a_1 + \frac{1}{2}a_3 \\ \text{(II)} \quad & (-x_1) \vee \left(-\frac{1}{2}a_3\right) \leq x_2 \leq \left(\frac{1}{2}(a_1 + a_2) - x_1\right) \wedge \left(\frac{1}{2}a_2\right) \\ & (-x_1 - x_2) \vee (-a_2 + x_1 + x_2) \vee (-a_3 + x_1 - x_2) \leq x_3 \leq (a_1 - x_1 - x_2) \wedge (x_1 + x_2) \wedge (x_1 - x_2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & -\frac{1}{2}a_2 \leq x_3 \leq \frac{1}{2}\left(a_1 + \frac{1}{2}(a_2 + a_3)\right) \\ \text{(III)} \quad & \left(-\frac{1}{2}a_3\right) \vee \left(-\frac{1}{2}a_3 - x_3\right) \leq x_2 \leq \left(\frac{1}{2}a_1 - x_3\right) \wedge \left(\frac{1}{2}a_2\right) \\ & (-x_2 - x_3) \vee (-x_2 + x_3) \vee (x_2 + x_3) \leq x_1 \leq (a_1 - x_2 - x_3) \wedge (a_2 - x_2 + x_3) \wedge (a_3 + x_2 + x_3). \end{aligned}$$

5. 非線形不等式系

まず、乗加法型不等式は次のように逐次型になる[11]。

補題5.1 関数 $g_i: R^+ \rightarrow R^+$ は上への連続狭義増加で、関数 $\beta_i: R^+ \rightarrow R^+$ は連続で、 $\beta_i(x_i) > 0$ とする。 $c > 0$ のとき、次の (I), (II) は同値である。

$$\begin{aligned} \text{(I)} \quad & g_1(x_1) + \beta_1(x_1)g_2(x_2) + \cdots + \beta_1(x_1) \cdots \beta_{n-1}(x_{n-1})g_n(x_n) \leq c \\ & x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(II)} \quad & 0 < x_1 < g_1^{-1}(c) \\ & 0 < x_2 < g_2^{-1}\left(\frac{1}{\beta_1(x_1)}(c - g_1(x_1))\right) \\ & \vdots \\ & 0 < x_n \leq g_n^{-1}\left(\frac{1}{\beta_{n-1}(x_{n-1})}\left(\cdots \left(\frac{1}{\beta_1(x_1)}(c - g_1(x_1)) - g_2(x_2)\right) \cdots \right) - g_{n-2}(x_{n-2})\right) - g_{n-1}(x_{n-1}) \end{aligned}$$

次に、加法型不等式系については次の補題にしめされる。

補題5.2 関数 $f_i, g_i: R^+ \rightarrow R^+$ は上への連続狭義増加とする。 $a \geq 0, b \geq 0$ のとき、次の (i), (ii) はそれぞれ同値である。

(i)

$$(I) \quad \begin{aligned} f_1(x_1) + \cdots + f_n(x_n) &\leq a \\ x_1 \geq 0, \cdots, x_n &\geq 0 \end{aligned}$$

$$(II) \quad \begin{aligned} 0 \leq x_1 &\leq f_1^{-1}(a) \\ 0 \leq x_2 &\leq f_2^{-1}(a - f_1(x_1)) \\ &\vdots \\ 0 \leq x_n &\leq f_n^{-1}(a - f_1(x_1) - \cdots - f_{n-1}(x_{n-1})). \end{aligned}$$

(ii)

$$(I) \quad \begin{aligned} f_1(x_1) + \cdots + f_n(x_n) &\leq a \\ g_1(x_1) + \cdots + g_n(x_n) &\leq b \\ x_1 \geq 0, \cdots, x_n &\geq 0 \end{aligned}$$

$$(II) \quad \begin{aligned} 0 \leq x_1 &\leq f_1^{-1}(a) \wedge g_1^{-1}(b) \\ 0 \leq x_2 &\leq f_2^{-1}(a - f_1(x_1)) \wedge g_2^{-1}(b - g_1(x_1)) \\ &\vdots \\ 0 \leq x_n &\leq f_n^{-1}(a - f_1(x_1) - \cdots - f_{n-1}(x_{n-1})) \wedge g_n^{-1}(b - g_1(x_1) - \cdots - g_{n-1}(x_{n-1})). \end{aligned}$$

次の例は2次の巡回不等式系が逐次的であることを示している。

例5.1

$$(I) \quad \begin{aligned} x_1^2 + x_2^2 &\leq 1 \\ x_2^2 + x_3^2 &\leq 1 \\ &\vdots \\ x_{n-1}^2 + x_n^2 &\leq 1 \\ x_1^2 &+ x_n^2 \leq 1 \end{aligned}$$

$$(II) \quad \begin{aligned} -1 \leq x_1 &\leq 1 \\ -\sqrt{1-x_1^2} \leq x_2 &\leq \sqrt{1-x_1^2} \\ &\vdots \\ -\sqrt{1-x_{n-2}^2} \leq x_{n-1} &\leq \sqrt{1-x_{n-2}^2} \\ -(\sqrt{1-x_1^2} \wedge \sqrt{1-x_{n-1}^2}) \leq x_n &\leq \sqrt{1-x_1^2} \wedge \sqrt{1-x_{n-1}^2}. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 0 < x_1 < c \\ 0 < x_2 < x_1(c - x_1) \\ 0 < x_3 < x_2(x_1(c - x_1) - x_2) \\ &\vdots \end{aligned}$$

$$(II) \quad 0 < x_{N-1} < x_{N-2}(x_{N-3}(\cdots x_2(x_1(c - x_1) - x_2)\cdots - x_{N-3}) - x_{N-2})$$

$$\left\{ \begin{array}{l} 0 < x_N < \infty \\ \underline{k}(g_{N-1}(c, x_1, \dots, x_{N-1})) \leq x_N \leq \bar{k}(g_{N-1}(c, x_1, \dots, x_{N-1})) \end{array} \right\} \begin{cases} 0 < g_{N-1}(c, x_1, \dots, x_{N-1}) < 2 \\ \text{のとき} \\ g_{N-1}(c, x_1, \dots, x_{N-1}) \geq 2 \\ \text{のとき.} \end{cases}$$

ただし

$$g_{N-1}(c, x_1, \dots, x_{N-1}) = x_{N-1}(x_{N-2}(\cdots x_2(x_1(c - x_1) - x_2)\cdots - x_{N-2}) - x_{N-1})$$

$$\underline{k}(g) = \frac{1}{2}(g - \sqrt{g^2 - 4})$$

$$\bar{k}(g) = \frac{1}{2}(g + \sqrt{g^2 - 4}).$$

例5.5

$$(I) \quad \begin{aligned} x_1 + x_1x_2 + x_1x_2x_3 + \cdots + x_1x_2 \cdots x_N &\leq c \\ x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_N > 0 \end{aligned}$$

$$0 < x_1 < c$$

$$0 < x_2 < \frac{c}{x_1} - 1$$

$$0 < x_3 < \frac{c}{x_2x_1} - \frac{1}{x_2} - 1$$

(II)

⋮

$$0 < x_{N-1} < \frac{c}{x_{N-2}x_{N-3} \cdots x_2x_1} - \frac{1}{x_{N-2}x_{N-3} \cdots x_2} - \cdots - \frac{1}{x_{N-2}x_{N-3}} - \frac{1}{x_{N-2}} - 1$$

$$0 < x_N \leq \frac{c}{x_{N-1}x_{N-2} \cdots x_2x_1} - \frac{1}{x_{N-1}x_{N-2} \cdots x_2} - \cdots - \frac{1}{x_{N-1}x_{N-2}} - \frac{1}{x_{N-1}} - 1.$$

ただし

$$\begin{aligned} &\frac{c}{x_{N-1}x_{N-2} \cdots x_2x_1} - \frac{1}{x_{N-1}x_{N-2} \cdots x_2} - \cdots - \frac{1}{x_{N-1}x_{N-2}} - \frac{1}{x_{N-1}} - 1 \\ &= \frac{1}{x_{N-1}} \left(\frac{1}{x_{N-2}} \left(\cdots \frac{1}{x_2} \left(\frac{1}{x_1} (c - x_1) \right) \cdots - x_{N-2} \right) - x_{N-1} \right) \end{aligned}$$

になっている。

参考文献

[1] R. Bellman, Dynamic Programming, Princeton Univ. Press, Princeton NJ, 1957.

- [2] G. B. Dantzig, *Linear Programming and Extensions*, Princeton Univ. Press, NJ, 1963 ; 小山昭夫訳, 「線形計画法とその周辺」, ホールト・サウンダース, 1983.
- [3] J. -B. J. Fourier, Solution d'une question particulière du calcul des inégalités. 1826, Oeuvres **II**, 317-328.
- [4] S. Iwamoto, Inverse theorem in dynamic programming II, III, *J. Math. Anal. Appl.* **58**(1977), 249-279 ; 439-448.
- [5] 岩本誠一, 「逐次決定過程としての動的計画論(1), (2)」, *オペレーションズ・リサーチ* **22** (1977) 427-434 ; 496-501.
- [6] S. Iwamoto, Reverse function, reverse program and reverse theorem in mathematical programming, *J. Math. Anal. Appl.* **95**(1983), 1-19.
- [7] 岩本誠一, 「動的計画論」, 九州大学出版会, 1987年.
- [8] 岩本誠一, 動的計画と累次積分について, *経済学研究(九大経済学会)*, 第**53**卷(1989年)4・5号, pp. 211-226.
- [9] S. Iwamoto, A three-mirror problem on dynamic programming, *Lecture Note in Control and Information Sciences* **121**(1989), Ed. A. Blaquière : Proceedings of the 3rd Bellman Continuum Workshop(pp. 363-382).
- [10] 岩本誠一, パラメトリックな線形計画と動的計画(1), (2), *経済学研究(九大経済学会)*, 第**55**卷(1989年)4・5号, pp. 173-185, ; 第**56**卷(1990年)1・2号, pp. 295-318.
- [11] 岩本誠一, 動的計画の最近の進歩, 第2回 RAMP シンポジウム論文集, 1990, pp. 129-140.
- [12] 岩本誠一, 線形積分と動的計画, 発表予定.
- [13] S. Iwamoto, Iterative integral versus dynamic programming, *Proceedings of the 4th Bellman Continuum Workshop*, May 21, 22(1990), Kansas State University ; *Computers Math. Applic.* Vol. **21**, No11/12, pp. 23-39, 1991.
- [14] T. S. Motzkin, *Beiträge zur Theorie der Linearen Ungleichungen*, Jerusalem, 1936 (Doctoral Thesis, University of Zurich).
- [15] J. Stoer and C. Witzgall, *Convexity and Optimization in Finite Dimension I*, Springer, NY, 1970.
- [16] 岩本誠一, 動的計画の図解, *オペレーションズ・リサーチ* **32** (1987). 399-403.